

世界と闘える愛知・名古屋に向けた課題（第 1 回会議で示された論点の整理）

※赤字は本部長（知事・市長）発言

＜地域の方向性、目指すべき姿＞

- 国土政策の観点から、次の 3 点に期待
 - ・日本を引っ張る大都市圏としての中京都
 - ・広域圏の中核都市としての中京都
 - ・民間が主導する大都市としての中京都
- まちづくりは民間が主導すべき。大都市圏の魅力を高める 4 つのポイントは、「ビジネスが効率的に行える街」「高齢者にとっても住みやすい街」「国際的に活用される街」「歴史・文化が感じられ、環境にやさしい街」
- キーワードは、
「元気な都市」「集まる都市」「安心な都市」「豊かな都市」
- この先 10 年のスパンで、韓国・中国と闘っていける競争環境が整備された地域（10 年後、韓国、中国の企業が直接投資をして進出したいというような海外の企業にとって魅力ある地域）
- 10 年以上先をにらんだ研究開発都市としての優位性を持った地域（海外、特に東南アジアからの優秀な研究者がここで研究をしたいと言える地域）
- 若者が元気になって、その才能が活かせるような地域
- 商売が盛んになって、どえりゃあ面白い街に
- 産業集積の愛知と大都市機能の名古屋という互いの長所をしっかりと引き出して、前に向けて進めていく
- 歴史と文化、アイデンティティを高めるものをつくっていききたい
- 芸術的なセンターとしての愛知・名古屋が、人々の人生、幸せともつながっていく
- まちを歩いただけで何かアイデアが浮かんだり、人生が豊かだったり、楽しかったりする時間や空間を発信すべき

＜政策課題と取り組むべき政策の方向性＞

産業活力

- 次世代産業の創出
 - ・スマートハウス、スマートコミュニティに関する産業を輸出産業に
 - ・次世代自動車、航空宇宙産業やメディカルデバイス産業などの産業振興と中小企業の新分野参入支援
 - ・自動車に次ぐ産業の育成。航空宇宙産業、次世代自動車、資源リサイクル、長寿、観光など。
 - ・介護ロボットなど、介護、医療の面で先進の技術を開発し、世界から尊敬・注目されるように
- アジアパワーの取り込み（中小企業の海外展開支援、インバウンド）
- 研究開発環境、モノづくり力の向上
 - ・大学と地域の研究機関、企業が連携して研究開発できる環境をつくるとともに大胆な税制が必要
 - ・先端技術の世界的な先進性、マザーファクトリーの力を維持・発展させること
 - ・モノづくりの地道な技を持った人材を育成すること（例：工業高校の強化）
- 中小企業の活躍
 - ・円滑な事業承継・創業の支援（税制、技能者の育成、人材マッチング）
 - ・モノづくりとともに、流通やサービス業など、複合的にパッケージ化された産業として発信していくべき

都市基盤・防災

- リニア開業をにらんだ都市づくり
 - ・名古屋駅周辺において思い切った再開発等を推進すべき（幅広い検討メンバーによるプランづくり）
 - ・首都圏のオーバーフロー、災害対応といった観点からもリニアの開業を積極的、前向きに捉えるべき
- 陸海空のインフラ整備
 - ・中部国際空港二本目滑走路をはじめ陸海空のインフラ整備に地域の総力を結集して進めていくべき
- 安全なまちづくり
 - ・河川災害、地震・津波への対応など災害に強い都市であることが重要
 - ・大阪、東京より強い地盤を活かし、強い社会システム、インフラづくりを戦略的に進めるべき

魅力創造・発信

- 新たな魅力・観光資源づくり
 - ・住んで面白い、遊びに行きたいという人間くさい味を持つ必要（大阪なら法善寺横丁、浪花恋しぐれ・・・）
 - ・自慢になるような都市の背骨をつくりたい（熱田神宮や草薙の剣、名古屋城天守閣の復元）
 - ・金シャチ横丁は人を惹きつける仕掛けが重要（歌舞伎小屋を核とした展開など）
 - ・リニア中央新幹線のオペレーションセンターを観光資源として活用してはどうか
- 広域観光の推進（中部運輸局が進める「昇龍道」などの捉え方も重要）
- 芸術・歴史等の活用
 - ・歴史や文化には核となる拠点が必要。史実に基づく本物の魅力が大切
 - ・トリエンナーレなど国際的なイベントも地元の歴史・文化とのシンクロが必要
- 魅力の発信
 - ・名古屋はパブリシティが下手なため、実力がほとんど知られていないので、名古屋に縁があれば幸福が手に入るというようなイメージを発信すべき

若者・女性支援

- 少子化対策・子育て支援
 - ・子どもが多いほど得をするような都市にすれば、自ずと人材が集まる。
 - ・女性が安心して職場に出ながら子育てできる環境をつくるべき（高齢者ボランティアや IT の活用）
- 人づくり
 - ・研究開発拠点を使いこなす人づくりこそが重要で、若い人が積極的に活動できるような教育施策を実施すべき

行財政体制

- 国からの自立・独立
 - ・140 年続く中央集権体制をぶち壊し、名古屋も独立、愛知も独立
 - ・財政的に独立採算にし、国税も徴収し、国に支払う
 - ・権限・財源の委譲を主張する前提として、地方の方が行政の効率が上だという論拠を示していくことが必要
- 名古屋の都市規模の拡大
 - ・名古屋の人間は、名古屋を分割するという精神はない
 - ・日本一の人口となる「尾張名古屋共和国」をつくっていくという精神で、近隣の市町村とその雰囲気をつくっていききたい

- 首都機能のバックアップ
 - ・独立の逆にはなるが、日本全体から見ると危機管理の面からはそういうことが必要
- 道州制、広域連携
 - ・東海地区と中部地区をエリアとする道州制を睨んで進めていきたい
 - ・道州制に加え、三遠南信という地域連携に取り組んでいる
- 政策論を優先すべき
 - ・地方分権の議論があるが、実質的な事柄を進めるほうが有益であり、形の議論よりも効率的な行政のあり方、バス・地下鉄などの公益事業や、防災・観光など他県との広域的な行政の連携により、「実」を挙げていくことに意味がある

中京都の実現に向けた取り組みイメージ〔たたき台〕

—世界と闘える元気な地域づくり—
(産業活力)

- ・ 企業の投資を呼び込む環境整備
- ・ 研究開発・生産技術開発力のさらなる向上
- ・ 次世代産業の育成
- ・ 強い中小企業の育成
- ・ モノづくり人材、海外高度人材の育成・活用

⋮

—世界に誇れる地域づくり—
(魅力創造・発信)

- ・ 愛知・名古屋のブランドの確立、プロモーション
- ・ 歴史に根ざした文化芸術の振興
- ・ 広域的観光ネットワークの形成

⋮

世界と闘える愛知・名古屋

- ・ 名古屋の都市機能と愛知の産業力を一体化し、
一国に相当する大都市パワーを発揮
- ・ 平成の楽市楽座～商売が盛んな街に
- ・ 愛知・名古屋のアイデンティティの確立
～住みたくなる、遊びに行きたくなる街に

—世界に開かれた安全・快適な地域づくり—
(都市基盤・防災)

- ・ 広域交通基盤の整備
- ・ リニア開業を見据えた都市機能強化
- ・ 災害に強い社会システム（首都機能のバックアップ含む）
- ・ 先端の環境性能を備えた都市基盤

⋮

—世界で活躍する人を育む地域づくり—
(若者・女性支援)

- ・ 子どもを生み育てやすい環境づくり
- ・ 地域の独自性を活かした教育
- ・ 若者の活躍の場づくり

⋮

中京都創設に向けた基本的な考え方〔たたき台〕

<共同マニフェスト>

中京都の創設

世界と闘える「強い大都市」をつくる

- ・アイチ・ナゴヤの合体
- ・強力で唯一の司令塔

重複行政の徹底排除

- ・合理化による経費節減で減税財源を確保

国への依存から、国からの自立へ

- ・アイチ・ナゴヤで国税徴収
- ・国からの請求に基づき負担

身近でやさしい民主主義の実現

- ・市町村への権限・財源移譲
- ・地域委員会の推進

<「大都市の自立と自治」愛知宣言>

地域から日本のかたちを変える！

1. 地方分権改革の推進、大都市圏の自立

- ・権限・税財源の移譲
- ・課税自主権の強化
- ・行財政、立法面での自立

2. 広域行政の強化

- ・広域機能の一元化や合体

3. 住民自治の充実

- ・地域自治組織の活性化など

4. 多様な大都市圏

- ・自らに相応しい制度の自主的な選択

<基本的な考え方>

中京都の将来像

日本屈指の産業集積地である愛知と、大都市機能が集中する名古屋が合体し、一体となって自立・独立を果たすとともに、強力で唯一の司令塔のもとに二重行政を徹底的に排除しながら、道州制をも見据えつつ、世界と闘える大都市圏として発展

<行政組織体制>

◎ 世界と闘うための戦略を一元的・総合的、さらに迅速に策定・推進するため、愛知県と名古屋市を合体し、強力で唯一の司令塔として、「中京都」を創設

※ 具体的な組織体制については、愛知宣言を踏まえて、さらに今後検討。

<重複行政の徹底排除>

- 重複行政の検証・徹底的な排除

<国の権限・税財源の獲得>

- 国からの権限、税財源の移譲を進め、域内の自立性を高めつつ、基礎自治体へ移譲

中京独立戦略本部の進め方イメージ

